

検査内容・年齢・費用 など

✓ 受診できる年齢・検査内容・費用をご確認ください。

総額の
約7割を
協会けんぽが
負担します
(※3)

一般健診※1

35歳～74歳※2の
被保険者

検査の内容(全項目セットでご受診いただきます。)

- 問診・触診等
- 身体計測
(身長、体重、腹囲等)
- 血液検査(肝機能、血糖、脂質、貧血、尿酸等)
- 心電図検査
- がん検診
- 胸部レントゲン検査
- 視力・聴力検査
- 便潜血反応検査
- 尿検査
- 胃部レントゲン検査(バリウム検査)

- 眼底検査(医師が必要と認めた場合のみ実施)

総額
18,865円

自己負担額
▶ 5,282円

総額
792円

自己負担額
▶ 79円

子宮頸がん 検診

20歳～38歳で偶数年齢の
女性被保険者(単独受診)

検査の内容

- 問診
- 細胞診(医師により採取して調べます。自己採取による検査は実施していません。)

総額
3,463円

自己負担額
▶ 970円

※1 一般健診は「労働安全衛生法に基づく定期健康診断の検査項目」及び一部「がん検診」を含みます。

※2 75歳の誕生日前日までとなります。 ※3 自己負担額は健診機関によって多少異なります。



一般健診に追加して受診する健診 (単独での受診はできません)

対象年齢
を拡大
しました

付加健診

40、45、50、55、
60、65、70歳の
被保険者

検査の内容

- 尿沈渣顕微鏡検査
- 肺機能検査
- 血液学的検査
(血小板数、末梢血液像)
- 生化学的検査
(総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、
アミラーゼ、LDH)
- 眼底検査
- 腹部超音波検査(腹部エコー)

総額
9,603円

自己負担額
▶ 2,689円

乳がん検診

40歳～74歳で
偶数年齢の
女性被保険者

検査の内容

- 問診
- 乳房エックス線検査(マンモグラフィ)

40歳～48歳(2方向撮影)

50歳～74歳(1方向撮影)

総額

自己負担額

5,621円

▶ 1,574円

3,619円

▶ 1,013円

*乳腺エコーは検査費用の補助対象外です。

子宮頸がん 検診

36歳～74歳で
偶数年齢の
女性被保険者

検査の内容

- 問診
- 細胞診
▶ 自己採取による検査は実施していません。
▶ 36歳・38歳の方は、子宮頸がん単独での検診も可能です。

総額
3,463円

自己負担額
▶ 970円

肝炎ウイルス 検査

35歳～74歳の
被保険者
(75歳の誕生日前日まで)

検査の内容

- HCV抗体検査
- HBs抗原検査
▶ 過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがある方は受診できません。

総額
2,079円

自己負担額
▶ 582円

健診の種類と項目

✓ **健診の種類と検査項目について、ご確認ください。**

■ 健診の種類は、おもに4種類あります。

特定健康診査

協会けんぽから補助あり

〔40歳以上の被扶養者
(ご家族)〕

メタボに着目した健診

定期健康診断

(事業者健診)

〔全従業員〕

全額事業主負担。
法律により実施が義務付けられています。

生活習慣病予防健診

協会けんぽから補助あり

〔35歳以上の被保険者(ご本人)〕

がん検診を含んだ健診が**5,282円**で受診可能、
年齢によっては**付加健診(人間ドック並)も補助**。定期健康診断として利用可能。

人間ドック

利用する健診実施機関によって内容・料金が異なります。

検査項目数が少ない

検査項目数が多い

健診ごとの検査項目

		特定健康診査	定期健康診断	生活習慣病 予防健診
診 察	問診(既往歴、服薬歴、自覚症状、他覚症状、喫煙歴等)	○	○	○
	身長	○	△	○
	体重	○	○	○
	標準体重・BMI	○	○	○
	腹囲	○	△	○
	理学的検査(胸部聴診・腹部触診)	○	○	○
血 圧		○	○	○
脂 質	総コレステロール定量	○	○	○
	空腹時中性脂肪	○	▲	○
	随時中性脂肪	●(※1)	▲(※1)	●(※1)
	HDLコレステロール	○	▲	○
	LDLコレステロール	○	▲	○
	non-HDLコレステロール	◇	◇	◇
肝 機 能	AST(GOT)	○	▲	○
	ALT(GPT)	○	▲	○
	γ-GT(γ-GTP)	○	▲	○
	ALP	○	○	○
代 謝 系	空腹時血糖	○	◆	○
	ヘモグロビンA1c	●	◆	●
	随時血糖	●(※2)	◆(※2)	●(※2)
	尿糖 半定量	○	○	○
	尿酸	○	○	○
血 液 一 般	ヘマトクリット値	■	○	○
	血色素判定	■	▲	○
	赤血球数	■	▲	○
	白血球数	○	○	○
尿・腎 機 能	尿蛋白 半定量	○	○	○
	尿潜血	○	○	○
	血清クレアチニン+eGFR	■	○	○
生 理 学 検 査	心電図検査	■	▲	○
	眼底検査	■	○	■
	胸部レントゲン検査	○	△	○
	喀痰細胞診	○	△	○
	胃部レントゲン検査	○	○	○
	胃部内視鏡検査	○	○	☆
そ の 他 保 険 者 が 任 意 に 行 う 検 査	視力	○	○	○
	聴力	○	○	○
	HBs抗原	○	○	□
	HCV抗体	○	○	□
	便潜血反応	○	○	○
	子宮頸がん(スメア方式)	○	○	☆
	乳がん	○	○	☆

○…必須項目

●…空腹時の検査が実施できない場合代用可能

□…以前検査を受けたことがない者

■…医師の判断により実施する項目

☆…希望により実施する項目

△…医師の判断により省略可能(省略条件は検査項目により異なる)

▲…医師の判断により省略可能(35歳及び40歳以上の者については必須項目)

◇…条件付きで実施する項目(中性脂肪が400mg/dl以上や食後採血の場合、LDLコレステロールの代わりに実施可能)

◆…選択実施項目 医師の判断により省略可能(35歳及び40歳以上の者については必須項目)

(※1)やむを得ず空腹時以外に採血を行う場合

(※2)やむを得ず空腹時血糖もヘモグロビンA1cも測定しない場合で、食事開始後3.5時間以上であること。

生活習慣病予防健診結果からわかること

健診の結果から受診を勧められている場合は、必ず医療機関に相談しましょう。

		一般 健診	付加 健診	参考基準値	検査でわかることなど
診 察 等	問 診	○		—	自覚症状・家族歴・既往症・服薬治療中の病気の有無・喫煙の有無など質問をもとにした医師の予備的診断です。
	身長・体重	○		—	体重が昨年と比べて変化したかに注目しましょう。急な増減は要注意です。
	BMI	○		18.5～25未満 (標準は22)	肥満(もしくはやせ)かどうかわかります。 *BMIの求め方=体重()kg÷身長()m÷身長()m
	腹 囲	○		男性:85cm未満 女性:90cm未満	内臓脂肪の蓄積の程度がわかります。
	視 力	○		裸眼視力0.8～1.2	近視かどうか等がわかります。
	聴 力 (1,000Hz 4,000Hz)	○		—	難聴の有無や程度がわかります。
	最高血圧(収縮期) 最低血圧(拡張期)	○		130mmHg未満 85mmHg未満	循環器(心臓、血管)の異常のほか腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手がかりになります。
脂 質	総コレステロール	○		140～199mg/dl	高値は動脈硬化を起こす原因になります。
	空腹時中性脂肪	○		150mg/dl未満	高値は動脈硬化を進めることにつながります。食事の影響が強いため空腹時に検査をします。
	随時中性脂肪	●(※1)		175mg/dl未満	高値は動脈硬化を進めることにつながります。
	HDLコレステロール	○		40mg/dl以上	低値は動脈硬化を進めることにつながります。
	LDLコレステロール (non-HDLコレステロール)	○		120mg/dl未満 (150mg/dl未満)	高値のまま放置すると、動脈硬化が進み、脳梗塞や心臓病の原因になります。
肝 機 能	AST(GOT)	○		30U/L以下	高値は肝炎などの肝機能障害や心筋梗塞、筋疾患などの疑いがあります。
	ALT(GPT)	○		30U/L以下	
	γ-GT(γ-GTP)	○		50U/L以下	高値は飲酒による肝障害または胆道系の病変の疑いがあります。
	ALP(IFCC法)	○		38～113 U/L	高値は胆汁の排泄に障害がある疑いがあります。
	総蛋白		○	7.9g/dl以下	栄養状態や肝機能、腎機能の指標になります。
	アルブミン		○	3.9g/dl以上	低値は高度の肝機能障害、消化吸収障害、腎疾患の疑いがあります。
	総ビリルビン		○	1.2mg/dl以下	高値は肝機能障害などによる黄疸(おうだん)が考えられます。
	アミラーゼ		○	200IU/l以下	膵臓(すいぞう)などの病変がわかります。
代 謝 系	LDH		○	245IU/l以下	高値は肝臓、腎臓、心筋、骨格筋、脳などの病変の疑いがあります。
	空腹時血糖	○		100mg/dl未満	高値は糖尿病の疑いがあります。食事の影響が強いため空腹時に検査をします。
	ヘモグロビンA1c(NGSP値)	●		5.6%未満	過去1～2ヶ月の血糖状態を表します。高値は糖尿病の疑いがあります。
	随時血糖	●(※2)		100mg/dl未満	高値は糖尿病の疑いがあります。
	尿 糖(半定量)	○		(-)	尿中の糖の有無を調べます。血糖値が高いときに増えることがあります。
血 液 一 般	尿 酸	○		7.0mg/dl以下	高くなると痛風、尿路結石の原因になります。
	Ht(ヘマトクリット)	○		男:38.0～48.9% 女:34.0～43.9%	低値は貧血の疑い、高値は肥満や脱水の可能性ががあります。
	Hb(ヘモグロビン)	○		男:13.0～16.6g/dl 女:11.4～14.6g/dl	低値は鉄欠乏性貧血の疑いがあります。
	赤血球数	○		男:400～539(×10 ⁴ /mm ³) 女:360～489(×10 ⁴ /mm ³)	高値は多血症、低値は貧血の疑いがあります。
	白血球数	○		33～89(×10 ² /mm ³)	高値は感染症の疑い、非常に高値・低値は血液の病気の疑いがあります。
	血小板数		○	14.5～32.9(×10 ⁴ /mm ³)	低値は出血が止まりにくい症状が出る可能性があります。
	末梢血液像		○	—	白血球、赤血球、血小板の大きさ、形を調べます。白血病、急性感染症やアレルギー疾患などがわかります。
尿・腎機能	尿蛋白(半定量)	○		(-)	(+)以上は慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、尿路感染症などが考えられます。
	尿潜血	○		(-)	(+)以上は腎臓、尿管、膀胱などの出血が考えられます。
	血清クレアチニン	○		男:1.10mg/dl以下 女:0.80mg/dl以下	高値は腎機能障害、前立腺肥大の疑いがあります。
	eGFR	○		60ml/min/1.73m ² 以上	低値は腎機能障害の疑いがあります。
	尿沈渣		○	—	異常所見は尿路の出血、炎症などの疑いがあります。
そ の 他	胸部レントゲン	○		—	肺の病気の有無・心臓の大きさ・大血管の大きさを調べます。
	心電図	○		—	心臓の状態をチェックし、不整脈・心肥大・狭心症・心筋梗塞等がないかを調べます。
	胃部レントゲン・内視鏡	○		—	食道・胃・十二指腸の異常がないかを調べます。
	便潜血反応検査	○		—	便中の血液の有無を調べ、消化管出血の有無を調べます。
	眼底検査	■	○	—	目の病気のほか、高血圧、動脈硬化、糖尿病による病変がないかを調べます。
	肺機能検査		○	—	慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺気腫、気管支ぜんそく、気管支拡張症などの有無や肺の換気機能を調べます。
	腹部超音波		○	—	肝臓、胆のう、腎臓の異常の有無や、胆石、肝硬変、肝がん、胆のう炎、腎盂炎、腎結石などがわかります。

生活習慣病予防健診

特定保健指導

定期健康診断結果の提供のお願い

特定健康診査